

# Monthly Report

 Vol.172 / 2020.AUG  
(月1回発行)

## 硬式野球部：気持ちを新たに活躍誓う/竣工式



全面人工芝にリニューアルとなった第2グラウンド野球場で記念写真

8月28日（金）第2グラウンド野球場改修竣工式を開催しました。昨年11月より着工し、今年5月には完成していましたが、コロナ禍の為、延期となっていました。

仕様は地元アイリスオーヤマ製の全面人工芝とLED照明となっており、特に人工芝は2種類の異なる形状を組み合わせた特別仕様となっています。

当日は晴天の中、竣工式が行われ、朴澤泰治理事長は「このグラウンドになるまでの経過や野球部のこれまでの歴史を踏まえて、更なる活躍、努力を期待しています」と激励しました。

選手を代表して佐野如一（体育4年）主将は「この素晴らしいグラウンドで毎日充実した日々を過ごさせています。このような環境で野球ができるのも多くの方々の支えやサポートがあってこそだと思います。私たちは結果でみなさんへ恩返しができるよう、これからも感謝の気持ちを忘れずに練習していきたいと思います」と気持ちを新たにしました。

式後は、記念紅白戦を実施し、本学が招聘している、白石市・柴田町東京2020オリ・パラホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんが始球式を務め、見事な投球を披露しました。

硬式野球部が所属する仙台六大学野球連盟の秋季リーグ戦は9月19日（土）から開幕予定です。今後の活躍が期待されます。



見事な投球を披露したセベツ・アリーナ親善大使

### 〈 目 次 〉

・硬式野球部：気持ちを新たに活躍誓う/竣工式	1
・「しっかりとした振り返り」（PDC A）を大切に！仙台大学の専門教養演習の講話より	2
・太陽の村キッズバイクパークオープニングイベント	3
・漕艇部にエール OBOG会が看板寄贈/部員たち活躍誓う ・大学スポーツ協会（UNIVAS）が本学を訪問 ・「総合英語A」、「総合英語C」の成績優秀者に対する表彰式を実施しました	4
・「ありがとう！」ベラルーシ新体操チームより応援動画メッセージ ・櫻井雅浩教授が山形大学で特別講演を実施	5
・芝草通信 NO. 16	6
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 28	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

# 「しっかりとした振り返り」(PDCA)を大切に！

## 仙台大学の専門教養演習の講話より

仙台大学 教授 千田 孝彦

今年着任した千田孝彦と申します。主として英語を担当しております。そんな私から見ると、これまで、仙台大学の学生諸君は様々な場面で活躍していると思います。

具体的には、地域の交流会への参加、各学科主催イベント等のボランティア活動、部活動での各種大会、そして、大学祭等の各種行事への積極的参加です。

仙台大学の大きな特徴である部活動の活躍は、地域社会に対して若い力の活気と明るさを与えています。これは、大学としての使命であり、これからも地域の人達と大切に育てていかなければならないと思います。学生諸君が教育活動に対して前向きに取り組む姿勢はそれを指導した才能豊かな先生方がいるからこそ実現できているの言うまでもありません。私もその一員に早くなれるように日々努力していきたいと思っています。

さて、今年は、授業は、オンデマンド授業となり、しかも、私にとっても長い教員生活の中でも初めての経験をしているところです。もちろん、英語の授業以外に仙台大学の大きな特徴である教養展開科目の仙台大学の専門教養演習も担当しています。これは、2年生から4年生までの学生が希望する種目に登録して受講する科目です。私の今年のテーマは「就職について」約70名の学生を5、6人にグループ分けして、演習を行います。

ここでは、第二回のミーティングによる授業、テーマが「For Seeking Employment」の中で私が講話した内容を紹介したいと思います。



以下が、講話内容です



本日は、スポーツを取り巻く環境の中で、学生諸君が就職活動を考える時に心がけて欲しいことについて、話をしたいと思います。

今年は新型コロナウイルス対応があり学生諸君は今までに経験したことのない状況での大学生活を送っているのではないかと思います。

しかし、個人的に振り返ってみると、君たちの中にはいろいろと反省していることもあるのではないのでしょうか。勉強を計画どおりすることができずに悩んでいた、部活動への関わりにも問題を感じている人もいます。まだ、そういう学生は何か打ち込むのが故に悩むのでいいと思います。大いに悩み、解決に努力しましょう。

また、ふと振り返ってみると、学生諸君の中には、自分以外の人の短所や欠点ばかりが浮かび、その人の長所や良いところを見えなくなっている人はいませんか。我々大人にも人のことをよく評論家のごとくあれこれ批評する人がいますが、もう一度謙虚に自分の行動を振り返ってみて、他人のちょっとした良いところに目を向けるようにしましょう。それによって、今まで気がつかなかった自分が見えてきます。そして、ただ大学に漠然と目標もなく来ている学生は早く自分なりの目標をどんなに些細なものでも良いので持つように努力しましょう。人間は、努力することが大切です。

以下のようにスポーツに関する資料からポイントを解説し、学生諸君には、「PDCA」について話をしようと思います。

- 1, 柔道の山下泰裕：スポーツとは
- 2, 就職戦線状況について
- 3, スポーツ庁長官 鈴木 大地
- 4, ラグビーの山田章仁
- 5, 仙台89ers 志村 雄彦
- 6, 教員志望の学生に対して

勉強でも部活動でも、また、この演習のテーマでもある就職活動でも、必ずこの「PDCA」ということを心がけてください。

つまり、何をする時にも、まず、目標に向かって「PLAN」すなわち、「計画を立てます」。次に、その計画に沿って「DO」すなわち、「実行します」。そして、計画通りに実行しているか実行し終わったら必ず「CHECK」すなわち、「反省・検証する」のです。そして、計画に無理はなかったか。適正な計画であったか。また、実行はどうか。計画通りに実行することができたか。実行できなかったのはどこで、それは、どうして実行できなかったのかをしっかりと反省するのです。そして、この反省は、次に計画を立て、実行に移す時の材料として、必ず生かされるために「ACTION」すなわち、「改善されなければなりません」。

これから、大学では、進路実現に向けての就職活動がたくさんあります。ぜひ、「PDCA」を忘れずに、そして、意識して行動するよう心掛けてほしい。

「目標は高く、努力は地道に」、努力することは裏切りません。

学生諸君一人一人の頑張りと、生き活きと充実した生活となるように期待しています。

さて、目標に向かって挑戦するという事は自分自身に対する挑戦でもあります。大学ばかりでなく日常生活においても、色々な体験をし、数々の試練を乗り越えてこそ充実した学生生活が可能になります。そこに真の友情が生まれることもあります。

- ・暖かくぬるま湯ではない、汗を流し泥にまみれる試練の体験をしてください。
- ・成功だけでなく、自分の不甲斐なさを知る失敗の体験も大切です。
- ・受け身ではなく、挑戦の心が生まれる体験をしてください。
- ・豊かさだけでなく、貧しさの体験も必要です。

この演習を通して、自分自身を見つめ直して、就職について自分の問題としてしっかり捉え、目標実現のために時を大切にして努力してください。そして、この一年で、学生諸君一人一人が大きく成長してほしいと思います。

これから、生徒諸君は様々なことにチャレンジする機会がたくさんあります。ぜひ、この「PDCA」を忘れずに積極的にたくましく何事にも取り組むことが、必ず自分自身の次への成長に繋がると思います。



これが、この講義で私が学生諸君に話した講話内容の一部です。

私の専門教科である英語では、習熟度別クラス編成をしており、オンデマンド授業での学生諸君の態度は、質問するにしても実に礼儀正しく、これまでの先生方の指導に感謝したい気持ちで、私も頑張らねばと改めて気合を入れ直しているところです。

また、仙台大学は、東北で唯一の体育系大学のスペシャリストとしての学士力を身につけさせるために、体育系大学としての「専門教育」と「教養教育」を実施し、更なるカリキュラムの改善を図っています。

学生諸君にとって、柴田町の自然に囲まれた素晴らしい環境の中でスポーツができることは、とても恵まれており、日々忘れないことが大切です。

私も学生諸君が、授業を通して学ぶ楽しさと少しでも人間的に成長することを手助けできるように、これから指導していきたいと思っています。

## 太陽の村キッズバイクパークオープニングイベント



子どもたちの安全をサポートする本学学生の様子

8月2日（日）梅雨明け初日の夏空の下、柴田町太陽の村キッズバイクパークオープニングイベントが開催されました。当日は、子ども運動教育学科、幼少年スポーツ教育論受講生がイベントのサポートと来場の幼児への乗り方指導を担いました。

セレモニーには柴田町の熊野幼稚園、浄心幼稚園、第1第2たんぼ幼稚園から約40名の園児が招待参加。子どもたち一人一人に対し、本学の学生はヘルメットやプロテクターの装着から乗り方指導まで懇切に行いました。パーク内には楽しげな子どもたちの歓声と両親の温かい声援が飛び交いました。子どもたちの中にはキッズバイクの初心者からレースに参加している子まで、技能面には幅広い差が見られましたが、本学学生の上手な声掛けと励ましにより、スタート地点からゴール地点までどの子も終始笑顔で駆け抜けました。

午後はキッズバイクの無料体験会。多くの子どもたちが列をなし今か今かと自分の順番を待っています。キッズバイクにまたがった子どもたちの目の輝きがとても印象的でした。

太陽の村は昭和51年に開村しました。蔵王や太平洋までの雄大な眺望が自慢の施設で、広大な芝生で自由に遊ぶ事ができ、四季を通じての憩いの場として利用されてきました。ここにキッズバイクパークオープンにより、さらに家族連れが楽しめる施設へと発展が期待されています。太陽の村の活動に仙台大学の学生が関わっていくことにより、人々の交流促進と町の活性化に併せて、子どもたちの運動遊びを通じたたくましい育ちに結びついていくことを願っております。

2020年のコロナ禍の中でしたが、子どもたちの笑顔と学生の献身的なお世話に感動した一日となりました。

<報告：子ども運動教育学科 教授 郡山孝幸>

## 漕艇部にエール OBOG会が看板寄贈／部員たち活躍誓う

仙台大学漕艇部の漕門館（漕艇部寮）に、漕艇部OB・OG会の漕門会より看板が寄贈されました。

柴田町を流れる白石川のほとりにある寮の前で、部員たちも気持ち新たにしていました。

寮の玄関先に掲げられた「漕門館」の力強い文字が杉材にしっかりと刻まれています。

多くの先輩たちがこの漕門館で競技者として、また人として、かけがえのない仲間と共に励ましあい成長していきました。

漕門館は今後も、学生たちの第二の故郷として競技生活はもとより学生生活を支える場になっていくことでしょう。

OB・OG会の皆さま、大変ありがとうございました。（8月24日）



## 大学スポーツ協会（UNIVAS）が本学を訪問

8月21日（金）一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）様と株式会社マイナビ様が来学され、UNIVAS様の初年度の取組みや成果、現在のコロナ禍における大学部活動の在り方等のお話を頂きました。また、今後展開されるマイナビ様と連携したデュアルキャリアプログラムに関する説明、オンラインを介したキャリア適正診断プログラムの構想や、大学入学前から始まり入学後も学年ごとにテーマ設定を設けたデュアルキャリアプログラムの導入計画等、大変貴重な情報を共有させて頂きました。

部活動マネージャーや主務等を対象としたGMGミーティング（UNIVAS様主催）を全国各地で開催されており、来学翌日に開催された仙台会場では本学学生もミーティングに参加し、マネージャーとはなにか、組織における目的の重要性、社会人になった際に生きてくる事例について学びました。

引き続きUNIVAS様との連携強化を図り、大学部活動の問題解決や発展に尽力して参ります。

<報告：スポーツ局>



（左から大友職員、遠藤学長、木村さま、伴さま、金田さま、林SA）  
株式会社マイナビ アスリートキャリア事業室 事業室長 木村 雅人 様  
一般社団法人 大学スポーツ協会 デュアルキャリア部 部長 伴 泰子 様  
一般社団法人 大学スポーツ協会 総合推進部 金田 竜成 様

## 「総合英語A」、「総合英語C」の成績優秀者に対する表彰式を実施しました

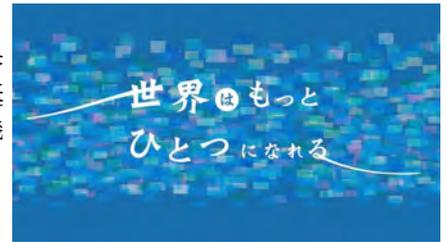
8月4日（水）コロナウイルスの影響で開催が遅れていました、昨年度後期の英語必修科目「総合英語A」と「総合英語C」の成績優秀者199名に対して、英語力向上のための日頃の努力への賛辞とその努力の今後の継続を願って、表彰式が実施されました。成績優秀者には、本学を会場として実施するTOEIC試験の受験費無料の特典（1年間）と、成績に応じてクオカードが贈呈されました。



表彰の様子

## 「ありがとう！」ベラルーシ新体操チームより応援動画メッセージ

仙台大学では、白石市、柴田町とともに招致したベラルーシ新体操ナショナルチームの東京2020オリ・パラに向けた事前合宿を2017年より実施して参りました。2020年は新型コロナウイルスの関係から東京2020オリ・パラも延期となり、併せて事前合宿も実施されず、残念ながら選手たちが来訪する機会が無くなってしまいました。



この事前合宿に限らず、コロナ感染予防のためイベント開催などが難しく、人と人とのつながりを維持していくことが難しくなっている状況を打開する一手とするべく、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部によりホストタウン専用サイト「世界はもっとひとつになれる Light up HOST TOWN Project」が計画され、そこでは海外アスリートからの応援メッセージ動画を掲載されております。

そこで本学では、白石市・柴田町東京2020オリ・パラホストタウン親善大使であるセベツ・アリーナ氏、マカロワ・マリア氏の協力のもと、ベラルーシ新体操ナショナルチームにメッセージ動画を依頼し、同サイトへ掲載させていただきました。

メッセージを頂戴したのは、これまでの事前合宿に参加してるアリーナ・ガルノシコ選手、カチェリーナ・ガルキナ選手、アナスターシャ・サロス選手の3名です。応援メッセージとともに、これまでの事前合宿の様子も紹介されておりますので、どうぞご覧ください。

「世界はもっとひとつになれる Light up HOST TOWN Project」

- ・ ホームページ <https://host-town.jp>
- ・ 応援メッセージ公開ページ [https://host-town.jp/athlete\\_message/ja/#overseas-player](https://host-town.jp/athlete_message/ja/#overseas-player)

## 櫻井雅浩教授が山形大学で特別講演を実施

櫻井雅浩教授は、8月7日（金）山形大学第二外科・貞弘光章教授のお招きにより「震災と結核」「ネクロプトーシス」などの話題について ～ と題するテーマで、山形大学医局員14名に対し特別講演を行いました。

内容は、東日本大震災と結核およびウサギを用いた骨髄虚血モデルと現在九州大学と共同研究しているネクロプトーシスの解説で、講演後に骨髄虚血モデル作成方法を供覧しました。



櫻井教授は震災と結核の関係について長年取り組んでおり、2011年3月に発生した東日本大震災でも災害基幹病院である仙台医療センターで、災害医療に力を尽くしました。

参加した医局員からは「心臓血管外科医でいらっしゃる櫻井教授から直接ご講義いただいたことで大変勉強になりました」との感想が寄せられ、これを機に山形大学との共同研究が始まることとなり、スポーツを科学する仙台大学として医学分野における学術研究がますます盛んになりそうです。

## 9月の芝生管理（暖地型芝生と寒地型芝生）について

夏日の猛暑日が続き高麗芝生は生育最盛期を迎えます。

\*自宅などの芝生の参考にもしてください。

### 1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理（暖地型日本芝生）

- ①刈り込み：10日から2週間に1回行います。まだまだ暑さが続きますので8月同様に結構です。
- ②水やり：猛暑日が続いている間は水やりを行います。気温と乾燥状態を調整しながら実施します。
- ③肥料：まだ生育期ですので1回与えます。その後は施しません。肥料を与え続けると、雑草が多くなります。
- ④病虫害の防除：9月下旬の秋の長雨のころはさび病やカーブラリア葉枯れ病が発生することがあります。刈込を規則正しく行うことで病気は軽減できます。ダメージは少なく回復困難になることは有りません
- ⑤草取り：雑草の発生は少ないのですが、取り残した雑草が株化して種をつける時期です。翌年に種を残さないように注意しましょう。

### 2A. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理（寒地型洋芝＋ 暖地型洋芝）

梅雨の影響もあまり見られずに、8月の猛暑日が続いたことにより暖地型洋芝バミューダグラスは順調に育ちました。

7月の下旬頃から8月の月上旬頃は寒地型洋芝と暖地型洋芝がお互いに競い合うように密集していました。しかし猛暑日が続くと本学の環境下では寒地型洋芝は衰退します。寒地型洋芝が密集している部分が裸地化してこげ茶色に変色し、直近まで一面緑色だったけれども、まだら模様になりました。8月下旬は猛暑日が続きバミューダグラスが盛んに成長して、裸地の間に食い込みつつあります。

- ①刈り込み：バミューダグラスの成長が旺盛なので、8月同様に刈り込みの翌日または3日目に刈り込みを行います。
- ②水やり：異常高温乾燥に注意を払います。乾燥が続くときは毎日～2日おきに、午前中に散水が必要になります。
- ③肥料：化成肥料（N-P-K=10-10-10）を1㎡当たり20g施します。
- ④病虫害防除：長雨の後の高温気象の時にピシウム病が発生しやすいので警戒をします。早朝の観察が必要となります。シバツトガなどの幼虫の発生は8月実施の防除で十分です。
- ⑤草取り：9月下旬の涼しくなるころに、休止していたスズメのカタバiraが復活してきますので常に除根をします。

### 2B. 芝生にムクドリが多数集まると、大変だ！

8月18日約30羽のムクドリの飛来が認められ、翌日19日にも約50羽の飛来が有りました。芝生に潜んでいるシバツトガの幼虫を空の高いところからでも見えるらしいです。1回位なら、ムクドリが幼虫を食べ尽くしたと考えられますが、2日続きでしかもさらに大勢のムクドリが飛来して芝生の上を突き回っていることは大変な状況です。

シバツトガの成虫は指の爪位の白色又は灰褐色をした蛾の一種です。年間に何回もふ化しながら、芝草の根に近い柔らかい部分を食い荒らします。最初の幼虫は数mm程度ですが老熟幼虫は体長が20mmに達し食害も大変な量になります。4月頃の小さいときは無視しても大丈夫ですが、成虫での防除は困難ですので、8月下旬ころの大きな幼虫を発見して、素早く薬剤を散布して防除しなければなりません。8,000㎡に10,000匹くらい発生すると一晩でグラウンドが食い荒らされます。大きな被害をもたらす害虫ですので、春先から成虫の観測や幼虫の発生の発見に最大の努力を継続しています。

19日朝の判断により、仕事の内容を変更して、常日頃保管している薬剤の散布を最優先にして、ワーカー（砂散布のスプレッダーからスプレーヤに載せ替えて待機中）で殺虫剤散布作業を実施しました。

写真 1. 第二グラウンド天然芝生【遠景】北西角近くに群がるムクドリの集団





写真 2. シバツトガの成虫  
『ノシバ・コウライシバ』ソフトサイエンス社出典



写真 3. シバツトガの幼虫  
第二グラウンド天然芝生(過去の例)



写真 4. 殺虫剤散布(スプレーヤ)状況  
仙台大学紀要Vo 1. 51、N02. 出典

(8月25日記)

川平キャンパスAT・S&Cレポート

## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 28

担当：浅野 勝成 助手

先日、プライオメトリクスと題した授業で垂直跳びの測定を行いました。測定機器としてジャンプマットを使い、空中滞空時間法にて算出しました。「どうせ測定するならば！」ということで、今回はちょっとした“遊び”を交えてみました。ウォームアップの違いがもたらす急性の垂直跳びへの効果を調べてみました。約30名を動的ストレッチ群(DS)、静的ストレッチ群(SS)、③何もしないコントロール群(CON)の3つのグループに分類し、10分程度のストレッチ介入を行った直後に垂直跳びの測定を行いました。結果は・・・



垂直跳び跳躍高のグループ平均は、CON>SS>DSという結果になりました。多くの研究ではDSが跳躍高に良い影響を与えるという示唆が出されていますが、今回は全く逆の結果となりました。

考えられる要因としては以下が挙げられます：

- ①動的ストレッチの量と強度が大きすぎた。
- ②暑さも関係して疲労が蓄積していた。
- ③グループ間での跳躍力の偏りがあった。
- ④そもそも垂直跳びの実施や測定に慣れていなかった。

一方で、環境や身体のコンドディションに応じてウォームアップの量と強度を調整する必要があるということにもなります。今回の“遊び”で生徒個々人のウォームアップについて考えるきっかけになれば良いと思います。

今回のような授業は、生徒だけでなく、体育教師そして私自身も楽しく取り組めるものでした。ただ知識を詰め込む授業ではなく、探究心をくすぐるような授業を今後も展開していきたいと思えます。